

仙台市文化財調査報告書第 354 集

# 仙 台 城 跡 登城路第 2 次調査

—平成 21 年度 調査報告書—



2009 年 9 月

仙台市教育委員会

# 仙 台 城 跡 登城路第 2 次調査

—平成 21 年度 調査報告書—



2009 年 9 月

仙台市教育委員会

## 序 文

慶長 5 年（1600）、初代藩主伊達政宗が仙台城の縄張り始めを行い、城下に仙台の町づくりを行ってから四百年余りが過ぎ、仙台市は人口 100 万人を越える東北地方の中心都市となりました。市の中心部が近代的なビルの林立する都市化の波にさらされていく中にあって、仙台城跡は青葉城や天守台といった愛称で、市街地から最も近い緑豊かな場所として市民から親しまれてきました。

遺跡としての仙台城跡は昭和 58 年以降発掘調査が行われ、平成 9 年度から 15 年度まで行われた本丸跡石垣修復工事に伴う発掘調査や平成 13 年度から始められた総合的な学術調査によって中世の山城であった千代城、そして伊達氏の居城としての全容が次第に明らかになってきました。これらの発掘で新たに判明した複数の時期に渡る本丸石垣構築の変遷や、金箔瓦・歐州産ガラス器・中国産陶磁器等の貴重な出土品等から、仙台城跡は平成 15 年 8 月、我が国の近世を代表する城郭遺跡であることが評価され、国の史跡に指定されました。これを契機として、仙台城跡の保存管理及び整備の基本的な方針を内容とする仙台城跡整備基本構想の策定がなされる等、仙台城跡の様々な魅力を引き出すための取り組みが始まっています。

一方、仙台城跡を市民の憩いの場所とすることを目的として始まった青葉山公園整備事業も行われております。これまで本丸、時の太鼓跡から沢門跡まで区間の園路整備工事に伴い、平成 17 年度に遺構確認調査を第 1 次調査として実施してまいりました。今年度はその継続事業として、沢門跡より大手門跡の区間を第 2 次として調査することができました。その成果は、今後の登城路の解明に役立つことが期待されます。

今回の調査事業及び調査報告書の刊行にあたり、多くの方々からのご指導、ご協力を賜りましたことに深く感謝申し上げますとともに、本報告書が研究者のみならず、市民の皆様に広く活用され、文化財保護の一助となれば幸いです。

平成 21 年 9 月

仙台市教育委員会

教育長 荒井 崇

## 例　　言

1. 本書は平成21年度仙台城跡登城路第2次発掘調査の報告書である。
2. 発掘調査は、株式会社シン技術コンサルが仙台市教育委員会の委託を受け、仙台市教育委員会の指導監督のもとに行った。
3. 調査及び本書の作成・編集にあたっては、仙台市教育委員会文化財課仙台城史跡調査室 佐藤洋・佐藤淳、株式会社シン技術コンサル 福井流星が行った。
4. 報告書の作成は佐藤洋の責任・指導のもとに次のとおり分担した。  
本文執筆 佐藤 洋 (I章)  
福井流星 (II~IV章)  
編集は佐藤・福井がこれにあたった。
5. 出土した陶磁器の鑑定は佐藤洋が行った。
6. 本書で使用した地形図は、国土地理院発行の1:50,000「仙台」の一部を使用している。
7. 遺構図の平面位置図は平面直角座標第X系（日本測地系）を用いており、文中で記した方位角は真北を基準とし、高さは標高値で記した。
8. 遺構番号は、全遺構にS-を付した。遺構番号は、登城路第1次調査からの通し番号を用い、1430より使用した。
9. 本報告書の上色については、『新版標準十色帖』(古山・佐藤：1970)を使用した。
10. 調査及び報告書作成に関する諸記録、出土遺物などの資料は仙台市教育委員会が保管している。

## 目　　次

序　文	
例　言	
I　はじめに	1
II　仙台城跡の概要	3
III　調査の成果	5
1. 1トレンチ	5
2. 2トレンチ	5
3. 3A・Bトレンチ	6
4. 4トレンチ	9
5. 5Aトレンチ	11
6. 5Bトレンチ	12
IV　まとめ	14
写真図版	15

# I はじめに

## 1. 調査に至る経緯

青葉山丘陵とその周辺では、仙台城跡を含む一帯が青葉山公園として整備事業が進められている。城内の登城路地区では、平成17年度に第1次調査として市道仙台城跡線の沢門跡より時の太鼓跡付近までを対象に、園路整備に伴い遺構確認調査及び土壠測量を実施した。

今年度は、再び園路整備とそれに伴う照明灯設置・ケーブル埋設設計画に先立ち、沢門跡より大手門跡の区間で遺構確認調査をする必要が生じた。仙台市教育委員会と仙台市建設局青葉山公園整備室との協議により、平成21年5月18日より遺構確認を目的として第2次調査を実施することにした。

## 2. 調査要項

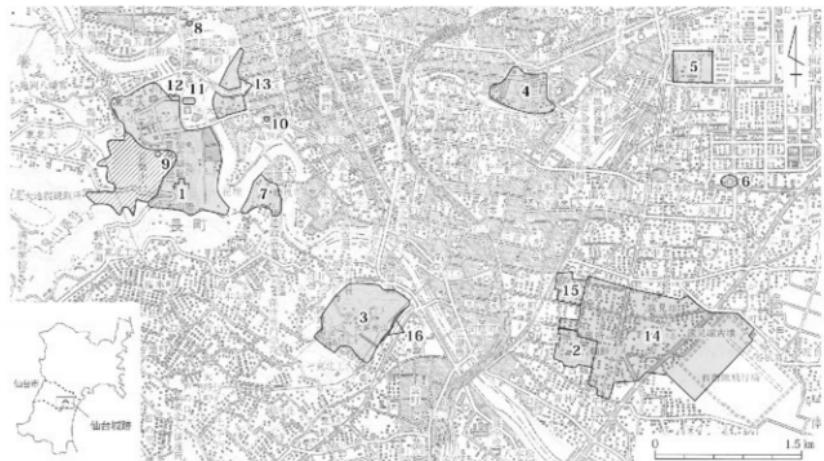
- (1) 遺跡名称 仙台城跡（宮城県遺跡地名登載番号 01033 仙台市文化財登録番号 C-501）  
(2) 調査地 仙台市青葉区川内無番地  
(3) 調査主体 仙台市教育委員会（生涯学習部文化財課仙台城跡調査室）  
(4) 調査体制 文化財課 課長 田中 則和  
仙台城史跡調査室長 工藤 哲司  
主査 佐藤 洋  
主任 佐藤 淳  
株式会社シン技術コンサル  
調査員 福井 流星  
計測員 小山内良一  
(5) 調査期間 平成21年5月18日～平成21年6月19日  
(6) 調査面積 25m<sup>2</sup>



仙台城跡航空写真（北方上空より 2000年撮影）



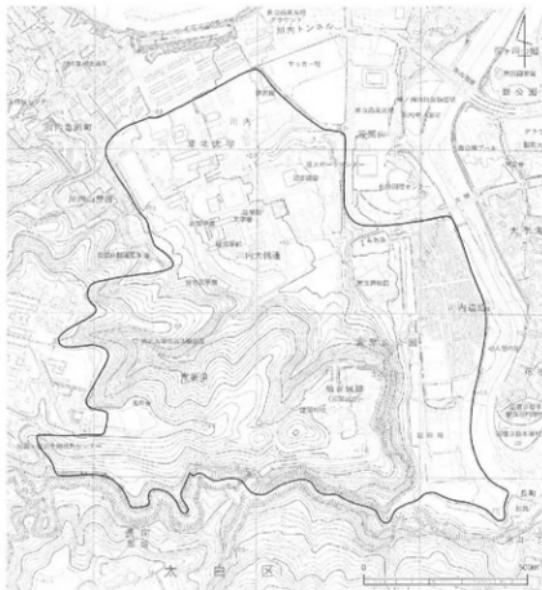
調査区遠景（北より）



第1図 仙台城跡と周辺の遺跡

第1表 周辺遺跡一覧表

城跡跡	4	8	12
1 仙台城跡	区分現留跡	幾千劫釋文系十号板碑	川内 B 遺跡
2 天然記念物吉備山(削除部分)	5 吉日城跡	9 月内古跡付	13 桜ヶ岡公園遺跡
3 石林城跡	6 各帝廟跡	10 吉平仙台大神宮の板碑	14 南小松遺跡
	7 絹ヶ葉伊達家構所	その他の中・近世の主な道路	15 森裡園遺跡
	板碑・石碑	11 月内八道跡	16 杉土手(前除土手)



第2図 仙台城跡(現況地形図と演跡範囲 1/15,000)

## II 仙台城跡の概要

### 1. 仙台城跡の地理的環境と現況

仙台城跡は仙台市街地の西方に位置し、西を青葉山丘陵、北と東を広瀬川、南を竜ノ口渓谷に囲まれた広瀬川中流域の河岸段丘面に立地する。本丸は丘陵上の平場（標高 115～117 m）に位置し、規模は東西 245 m、南北 267 mで南側を竜ノ口渓谷、東側は広瀬川に落ちる高さ約 70 m の断崖に守られ、比較的傾斜が緩い北側には高さ約 17 m の石垣が築かれている。西側は御裏林と呼ばれた森林が広がり、築城以来、本丸背後の防衛と水源涵養のため一般人の立入りや樹木の伐採が厳しく規制された。明治以降は陸軍第二師団の管理下、戦後は進駐軍用地となつたが立入りは制限されたため、現在も貴重な自然が残る。昭和 47 年（1972）には国指定天然記念物「青葉山」の指定を、平成 15 年（2003）には天然記念物指定区域が国史跡「仙台城跡」の一部として指定を受けている。

本丸跡の麓の河岸段丘には二の丸跡と三の丸跡がそれぞれ仙台上町段丘面、仙台下町段丘面に立地している。二の丸跡は広瀬川に合流する二本の沢に挟まれ、御裏林を背とした場所に位置し、現在は大部分が東北大學川内キャンパスとして利用されている。二の丸跡東側に位置する大手門跡付近には高さ約 9 m の石垣が残り、その南側には大手門脇構が復元されている。三の丸跡は水堀と土塁に囲まれ、子の門跡の向隣には石垣が残存している。

### 2. 仙台城跡の歴史的背景

仙台城は初代藩主伊達政宗により、関ヶ原の戦い直後の慶長 5 年（1600）12 月 24 日に繩張りが開始され、翌年 1 月から普請に着手、慶長 7 年（1602）5 月に一応の完成をみたとされる。築城当初は「山城」である本丸を中心とする城郭であったが、政宗の死後、二代藩主忠宗が山麓部に二の丸を造営し、寛永年間以降は二の丸が藩政の中心となり、三の丸・重臣武家屋敷などが一体となって城域が形成された。

絵図や文献によれば、本丸には詰門の東側に天皇家や將軍家を迎える御成門があり、中央には華麗な障壁画や欄間彫刻に彩られた大広間を中心とする御殿建物群が存在し、能舞台・書院などが上方から招いた当代一流の大工棟梁・工匠・画工によって造られ、桃山文化の集大成といえる建物群が威容を誇っていたと考えられている。

本丸の建物群は江戸時代の災害や、明治維新後の取り壊しで失われ、二の丸御殿群も明治 15 年（1882）の大火で焼失した。唯一、仙台城の面影を伝えていた国宝の大手門及び脇櫓も昭和 20 年（1945）7 月、太平洋戦争による米軍の空襲で焼失した。現在では、本丸北壁の石垣、三の丸を囲む堀と土塁などが往時の仙台城を偲ぶ貴重な遺構となっている。なお、青葉山には伊達氏により仙台城が築城される以前にこの地を治めていた国分氏の居城「千代城」に関する 16 世紀代の文献記録が残っており、中世山城が存在していた可能性が指摘されている。

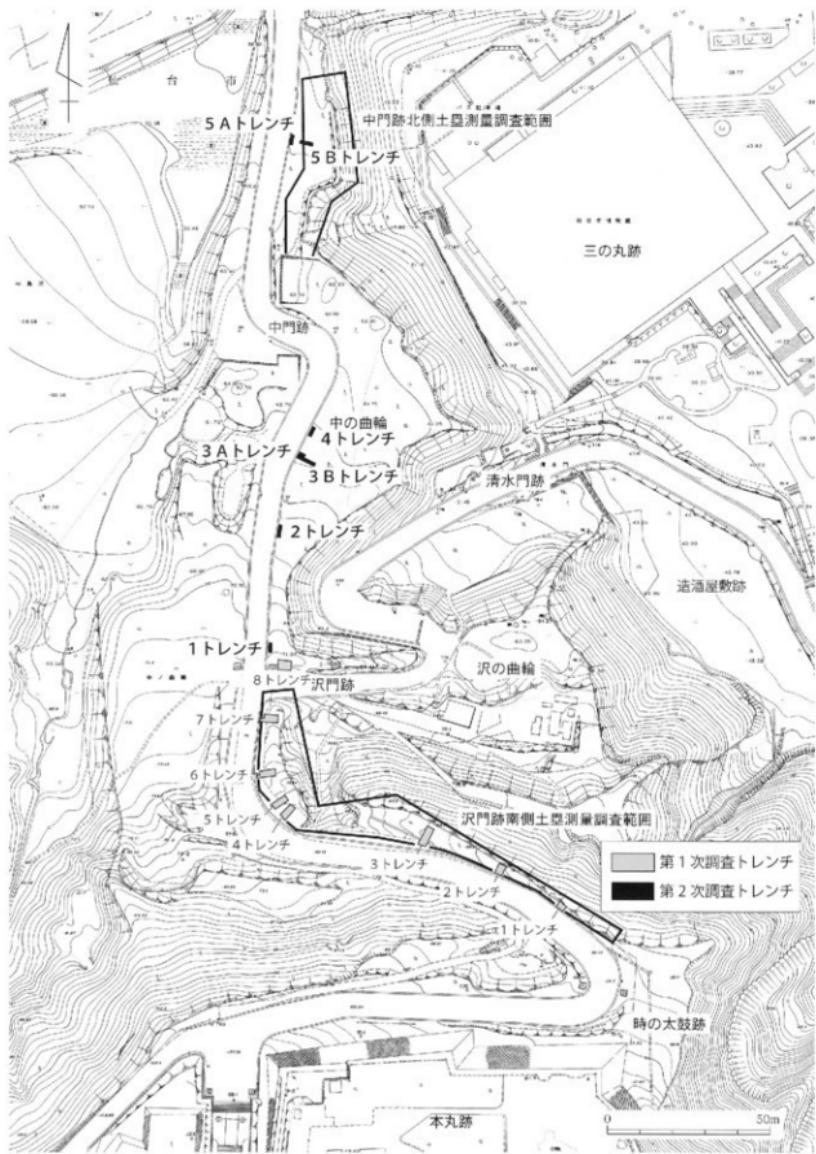
本丸に至る登城路は、巽門跡から清水門跡・沢門跡を通る経路と、大手門跡・中門跡を通る経路がある。巽門跡を通る経路は、築城当初に造られ、複雑な屈曲があり、途中には石垣や土塁が設けられ、防御性の高いものであった。大手門を通る経路は慶長後期から寛永期に造られたと考えられており、現在は市道仙台城跡線として多くの車両が行きかっている。

### 3. 仙台城跡の発掘調査

仙台城跡の調査には、昭和 58 年度（1983）から継続的に実施されている東北大學構内の施設整備に伴う二の丸跡の発掘調査、昭和 58・59 年度（1983・1984）に実施された仙台市博物館の新築工事に伴う三の丸跡の発掘調査、平成 18 年度（2006）に実施された二の丸巽門跡周辺の遺構確認調査、平成 19・20 年度（2007・2008）に青葉山公園整備に伴い実施された追廻地区の遺構確認調査などがある。本丸跡では平成 9 年度（1997）から平成 15 年度（2004）にかけて石垣修復工事に伴う発掘調査が行われ、現存の右垣（Ⅲ期右垣）背面より二時期にわたる旧石垣（Ⅰ期・Ⅱ期石垣）が検出され、石垣基部の剥査や断面構造の記録化により、Ⅰ期からⅢ期までの石垣の変遷や構造などが明らかとなった。

登城路は平成 17 年度（2005）に園路整備に先立ち、沢門跡から時の太鼓跡付近までの遊歩道で遺構確認を目

的とした調査と中門跡北側土壘と沢門跡南側土壘の現況測量が行われ、登城路の基盤整備に伴う造成土や登城路の路面整備状態を示す石敷き造構、沢門跡に取付く砾の布掘り溝などが検出されている。



第3図 仙台城登城路周辺の地形と調査地点位置図 (1/1,500)

### III 調査の成果

各調査区が離れているため、基本層序は隣接する3A・3Bトレンチを除き、調査区ごとに記載する。

#### 1.1 トレンチ（第3・4図、図版1・2）

沢門跡から北西約5m、標高約70.3～70.6mに位置する遊歩道に1×3mのトレンチを設定した。調査区全面に広がる盛土層が2層堆積するが、遺物が出土しなかったため、時期は特定できなかった。下層の堆積状況を把握するため、南側の盛土層を掘り下げた結果、地表から約60cmの地点で地山層を検出した。各層上面で遺構検出を行なったが、遺構は検出されなかった。

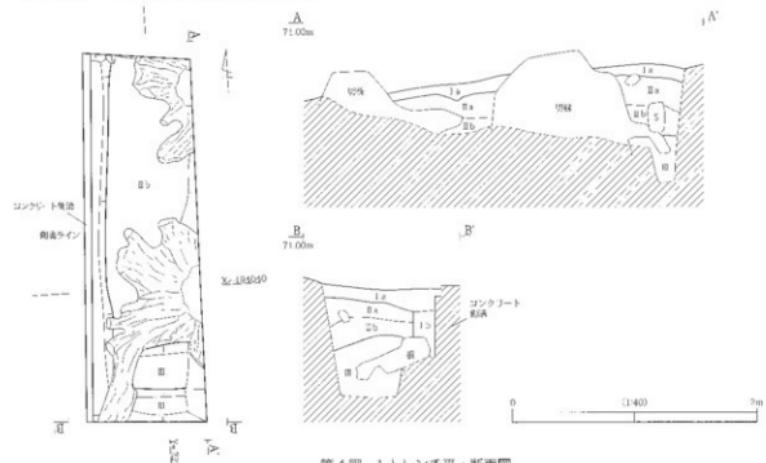
##### （1）基本層序

基本層はⅠ層（表土）、Ⅱ層（盛土層）、Ⅲ層（地山層）に大別された。Ⅱ層は2層に細分され、Ⅱa層はにぶい黄褐色砂質シルトが主体、Ⅱb層は黄褐色シルトが主体である。遺物は出土しなかった。Ⅲ層は深掘りを行った調査区南側で、地表面から約60cmの地点で検出した。明黄褐色粘土質シルトが主体で層厚は50cm以上である。

##### （2）遺構と遺物

遺構 検出されなかった。

出土遺物 Ⅰ層：瓦片5点、磁器片2点。



第4図 1トレンチ平・断面図

第2表 1トレンチ土層注記表

層序	層位	土		水質	石		性	考
		上	下		上	下		
-	-	1a	10783/1	黒褐色	シルト	なし	なし	丸石
-	-	1b	10783/3	黒褐色	稍硬シルト	あり	なし	淡褐色泥質方解石。延30cm以下の青褐色土塊を含む。地頭に削り跡が見られる。
-	-	1b	10783/4	灰褐色	硬質シルト	なし	ややあり	淡土色。延30cm以下褐色を少量。付30cm以下地頭内。軋を確認される。
-	-	2a	10785/6	黒褐色	シルト	ややなし	あり	暗1m。付30cm以下風化塊を少数含む。
-	-	2b	10787/6	褐黄色	粘土質シルト	ややあり	あり	地山層。延50cm以下風化塊を少數含む。

#### 2.2 トレンチ（第3・5図、図版3・4）

沢門跡と中門跡の中間、標高65.9～66.3mに位置する遊歩道に1×4mのトレンチを設定した。調査区北側では整地層の可能性がある盛土層が堆積し、中央から南側では円礫・風化塊が多く含んだ盛土層が堆積する。遺物が出土しなかったため、時期は特定できなかった。盛土層上面で遺構検出を行なったが、遺構は検出されなかった。下層の堆積状況を把握するため、南側の盛土層を地表面より約100cm掘り下げたが、地山層は確認できなかった。

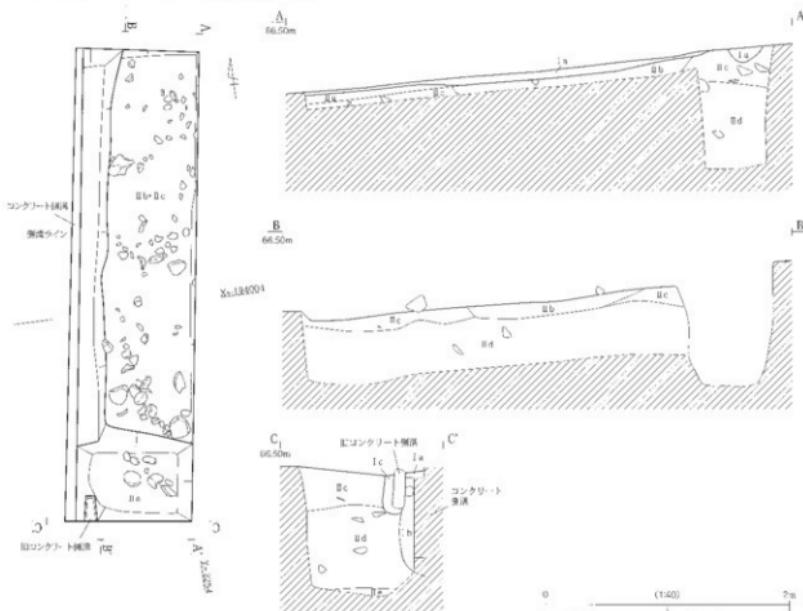
### (1) 基本層序

基本層はⅠ層(表土)、Ⅱ層(盛土層)に大別された。Ⅱ層は5層に細分された。Ⅱa層は調査区北側にのみ堆積し、にぶい黄褐色シルトが主体で含有物はあまり含まない。Ⅱb～Ⅱe層は黄褐色砂質シルト・にぶい黄褐色粗砂が主体で円礫・風化礫を多く含む。いずれの層からも遺物が出土しなかったため、時期は特定できなかった。

### (2) 造構と遺物

造構 検出されなかった。

出土遺物 Ⅰ層：瓦片3点、磁器片1点。



第5図 2トレンチ平・断面図

第3表 2トレンチ土層注記表

番号	剖面	色	土性	土性		備考
				地盤	しりぞ	
I a	10YR5/1	黒褐色	シルト	ややなし	あり	表5cm以下の緑をやや多量、5~5mm以下の無機白色を少々含む。
I b	10YR5/2	黒褐色	砂	なし	なし	無機褐色りが漂う。10cm以上の風化壁、5~5mm以下の無機白色土を多量、片岩を多量含む。
I c	10YR5/3	黒褐色	砂質シルト	なし	なし	山地風削りが漂う。10cm以上の風化壁、5~5mm以下の無機白色土を多量含む。
II a	10YR5/4	にぶい黄褐色	シルト	ややあり	ややあり	風化壁、10cm以下の風化内「粘を無基底含む。
II b	10YR5/5	古褐色	砂質シルト	なし	ややあり	風化壁、10cm以下の風化内「粘を無基底含む。
II c	10YR5/6	黄褐色	砂質シルト	なし	ややあり	風化壁、10cm以下の風化壁を多量含む。10cm以上の無機白色土を複数含む。
II d	10YR5/7	にぶい黄褐色	砂	なし	あり	風化壁、10cm以下の風化壁を多量含む。
II e	10YR5/8	古褐色	粘・砂質シルト	あり	なし	風化壁、10cm以下の風化壁を多量含む。

### 3.3 A・Bトレンチ（第3・6～8図、図版5～9・17）

中門跡から南へ約17m、標高62.85～63.55mの遊歩道に位置する。通路を確保するため、3 Aトレンチから調査を着手し、調査及び埋め戻し終了後、3 Bトレンチの調査を行った。3 Bトレンチ調査時には溝状遺構(S-1434)の範囲確認のため、3 Aトレンチ南東隅を0.5×1mの範囲で再度開け直した。

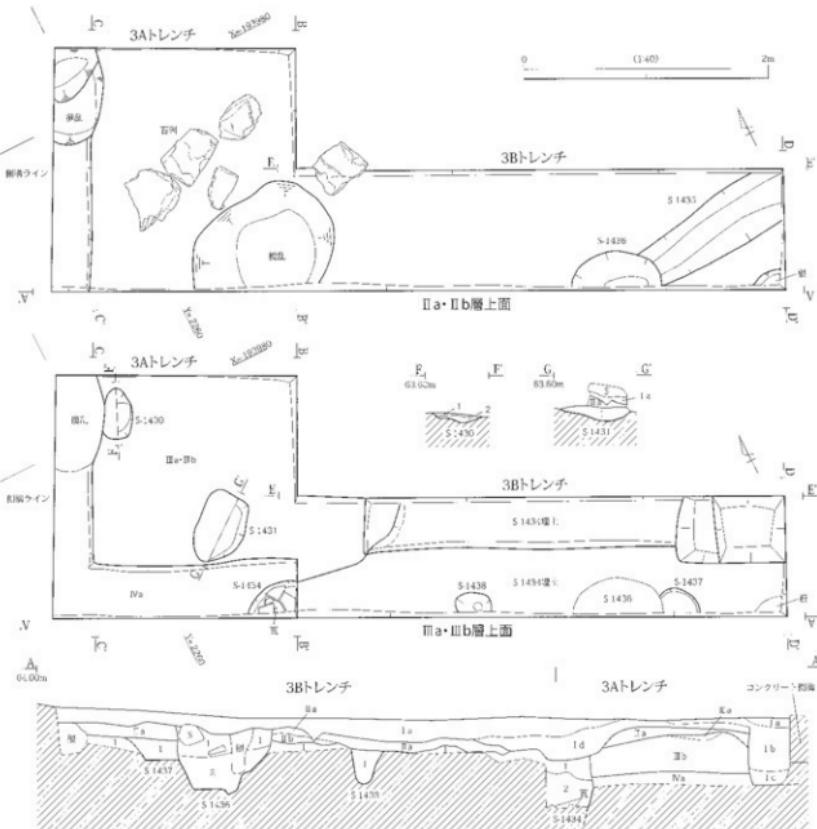
3 Aトレンチは2×2mのトレンチを設定した。調査区中央には、石組側溝または石垣などに用いたと想定さ

れる石材が4個露出していたが、II層上面で石材に伴う遺構は検出できなかったため、この石列は後世に配置された新しいものと考えられる。調査区全面で近代の盛土層、近世の整地層が堆積していた。整地層上面で遺構検出を行った結果、ピット2基(S-1430・1431)、振乱下で3Bトレンチへ延びる溝状遺構1条(S-1434)を検出した。

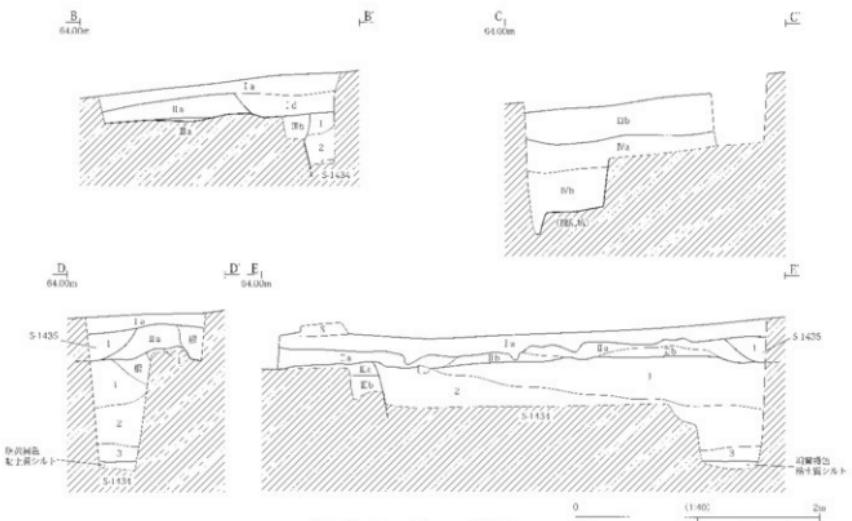
3Bトレンチは3Aトレンチの東側に1×4mのトレンチを設定した。調査区全面で近代の盛土層、調査区北西側で近世の整地層が堆積していた。近代の盛土層上面で溝跡1条(S-1435)、ピット1基(S-1436)を検出し、近世の整地層上面で溝状遺構1条(S-1434)、S-1434埋土上面でピット2基(S-1437・1438)を検出した。

#### (1) 基本層序

基本層はI層(表土)、II層(近代の盛土層)、III層(近世の整地層)、IV層(地山層)に大別された。II層は2層に細分された。IIa層は調査区全面で堆積しており、褐色シルトが主体である。遺物は瓦片、大砲点火具の摩擦管などが出土している。IIb層は3Bトレンチで部分的に堆積しており、にぶい黄褐色シルトが主体で、灰白色土粒が多く含む。遺物は瓦片、鉛玉などが出土している。III層は2層に細分された。IIIa層は両トレンチで部分的に堆積しており、黄褐色粘土質シルトが主体で径5mm以下の風化礫を多く含む。IV層は2層に細分された。



第6図 3A・Bトレンチ平・断面図



第7図 3A・Bトレーンチ断面図

第4表 3A・Bトレーンチ土層付記表

序号	固井	L 色	二見	土 性	記 号	
	三井	IIa	上地	砂質シルト	表 1. 10cm以下で透水を認めず。	
I-a	10YR5/1	黒褐色		なし		
I-b	10YR5/4	灰褐色	砂質シルト	なし	透水5cm以下の透水をやや多く、10cm以下で透水を認めず。	
I-c	10YR5/2	黒褐色	シルト	なし	透水5cm以上で透水をやや多く、10cm以下で透水を認めず。	
I-d	10YR4/2	黒褐色	シルト	ややあり	透水5cm以下の透水をやや多く、10cm以下で透水を認めず。	
I-e	10YR4/4	褐色	シルト	ややなし	透水5cm以下の透水をやや多く、10cm以下で透水を認めず。	
I-f	10YR6/4	灰褐色	シルト	ややあり	透水5cm以下の透水をやや多く、10cm以下で透水を認めず。	
II-a	10YR5/6	黄褐色	粘土質シルト	ややなし	透水5cm以下の透水をやや多く、10cm以下で透水を認めず。	
II-b	10YR5/0	褐色	粘土質シルト	あり	透水5cm以下の透水をやや多く、10cm以下で透水を認めず。	
II-c	10YR5/0	黒褐色	粘土質シルト	あり	透水5cm以下の透水をやや多く、10cm以下で透水を認めず。	
II-d	10YR5/0	灰褐色	シルト	あり	透水5cm以下の透水をやや多く、10cm以下で透水を認めず。	
II-e	10YR5/4	灰褐色	シルト	なし	透水5cm以下の透水をやや多く、10cm以下で透水を認めず。	
II-f	10YR4/4	黃褐色	粘土質シルト	ややあり	透水5cm以下の透水をやや多く、10cm以下で透水を認めず。	
S-1430						
2	10YR4/6	黃褐色	粘土質シルト	ややあり	透水5cm以下の透水をやや多く、10cm以下で透水を認めず。	
S-1431	1	10YR5/0	灰褐色	砂質シルト	なし	透水5cm以下の透水を多く認め、10cm以下で透水を認めず。
	1	10YR5/4	灰褐色	粘土質シルト	ややあり	透水5cm以下の透水を多く認め、10cm以下で透水をやや多く、10cm以下で化成透水を認めず。
S-1434	2	10YR7/2	灰褐色	粘土質シルト	ややあり	透水5cm以下の透水を多く認め、10cm以下で透水をやや多く、10cm以下で化成透水を認めず。
	3	10YR4/1	褐色	シルト	なし	透水5cm以下の透水を多く認め、10cm以下で透水を認めず。
S-1435	1	10YR4/4	褐色	シルト	なし	透水5cm以下の透水を認めず。
S-1436	1	10YR4/4	褐色	シルト	ややあり	透水5cm以下の透水を認めず。
2	10YR4/2	灰褐色	粘土質シルト	ややあり	透水5cm以下の透水を認めず。	
S-1437	1	10YR5/6	黒褐色	シルト	なし	透水5cm以下の透水を認めず。
S-1438	1	10YR4/4	褐色	粘土質シルト	ややあり	透水5cm以下の透水を認めず。

## (2) 遺構と遺物

S-1430（ピット） 3Aトレーンチ北西側、Ⅲ層で検出した。規模は長軸40cm、短軸32cmで検出面からの深さは8cmである。平面形状は楕円形で断面形状は皿状を呈する。埋土は2層に分層され、遺物は瓦片が2点出土した。

S-1431（ピット） 3Aトレーンチ中央東側、Ⅲ層上面で検出した。規模は長軸58cm、短軸38cmで検出面からの深さは11cmである。平面形状は楕円形で断面形状は皿状を呈する。埋土は単層で遺物は瓦片が1点出土した。

S-1434（溝状遺構） 3Aトレーンチ南東隅及び3Bトレーンチで検出した。S-1437・1438に切られる。調査区外へ延びるため、全体の規模・形状は不明であるが、検出した範囲での規模は幅4m以上、一部埋土を掘り下げた箇所では、深さ約90cmの地点で底面の可能性がある明黄色粘土質シルト層を確認した。平面形状は「S」字状を呈し、南北方向に延びると想定される。Ⅲ層上面から掘り込まれており、壁面はほぼ垂直に立ち上がる。遺物は瓦片が62点、金属製品が2点出土した。検出範囲が狭いため断定はできないが、規模・形状から溝跡の可能性が高い。

S-1435（消跡） 3Bトレーンチ東側、Ⅱ層上面で検出した。S-1436に切られる。調査区外へ延びるため、全体の規

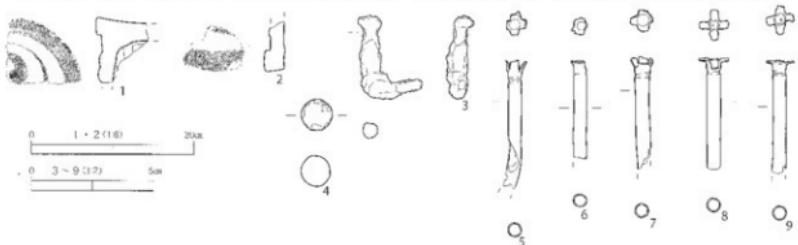
模・形状は不明である。主軸方位は N $80^{\circ}$  Eで、検出した範囲での規模は長さ 125cm、幅 35~47cm、検出面からの深さは 10~20cm である。断面形状は皿状を呈する。埋土は単層で遺物は瓦片が 1 点出土した。

S-1436 (ピット) 3 B トレンチ南側、II 層上面で検出した。S-1435・1437 を切る。検出した範囲での規模は長軸 74cm、短軸 29cm で検出面からの深さは 48cm である。推定される平面形状は楕円形で断面形状は逆台形を呈する。埋土は 2 層に分層され、遺物は瓦片が 2 点、コンクリート片が 1 点出土した。

S-1437 (ピット) 3 B トレンチ南側、S-1434 の 1 层上面で検出した。S-1436 に切られ、S-1434 を切る。検出した範囲での規模は長軸 30cm、短軸 20cm で検出した面からの深さは 16cm である。推定される平面形状は円形で断面形状は逆台形を呈する。埋土は単層で径 5 cm 以下の円錐を多く含む。遺物は出土しなかった。

S-1438 (ピット) 3 B トレンチ南側、S-1434 埋土上面で検出した。S-1434 を切る。検出した範囲での規模は長軸 29cm、短軸 16cm、検出面からの深さは 28cm である。推定される平面形状は楕円形で断面形状は「U」字状を呈する。埋土は単層で遺物は出土しなかった。

出土遺物 1 層：瓦片 21 点、金属製品 19 点、陶器片 1 点、磁器片 1 点、II 層：瓦片 58 点、陶器片 1 点。



第 8 図 3 A・B トレンチ出土遺物

第 5 表 3 A・B トレンチ出土遺物観察表

測定番号	種類	直角座標	遺物番号	文種	出土場所		測量(mm・g)			特徴	参考文献
					直角座標	斜位	幅	高さ	厚さ		
測定番号-1	井丸瓦	F2	-104	一色瓦	S-1434	I	(5.0)	2.1	(130.1)	瓦刃、内面ナガリ、底面無れがり。	参考文献: 1-1
測定番号-2	瓦	F1	187	三毛瓦	S-1434	I	(8.0)	2.4	(108.0)	瓦刃、瓦底面無れがり。	参考文献: 1-2
測定番号-3	瓦	H3	197	-	S-1434	I	3.4	0.6	4.5	無井丸瓦がる。	参考文献: 1-3
測定番号-4	瓦	H4	158	-	S-1434	I	1.3	1.3	1.2	無井丸瓦。	参考文献: 1-4
測量番号					測量(mm・g)			測量(mm・g)			参考文献
測定番号-5	漆塗瓦	N-1	10	-	直角座標	斜位	幅	高さ	厚さ	漆塗瓦	参考文献: 1-5
測定番号-6	漆塗瓦	N-2	11	-	直角座標	斜位	6	0.5	8	(13.0)	参考文献: 1-6
測定番号-7	漆塗瓦	N-3	206	-	直角座標	斜位	6	0.5	12	(22.0)	参考文献: 1-7
測定番号-8	漆塗瓦	N-4	206	-	直角座標	斜位	6	0.5	12	(22.0)	参考文献: 1-8
測定番号-9	漆塗瓦	N-20	206	-	直角座標	斜位	6	0.5	12	(22.0)	参考文献: 1-9

#### 4.4 トレンチ (第 3・9・10 図、図版 10・11・17)

中門跡から南へ約 13m、標高 62.7 ~ 63m に位置する遊歩道に 1 × 3 m のトレンチを設定した。調査区北東には平場があり、明治 4 年から昭和 4 年まで正午を知らせるための午砲を撃つ号砲所が置かれていた。調査区全面で近代以降の盛土層が堆積し、上面でピット 1 基 (S-1432)、盛土層下で溝状遺構 1 条 (S-1433) を検出した。

##### (1) 基本層序

基本層は I 層 (表土)、II 層 (近代の盛土層)、III 層 (地山層) に大別された。II 層は 2 層に細分され、遺物は金属製品が出土した。III 層は調査区西側中央部の側溝底面でのみ検出された。

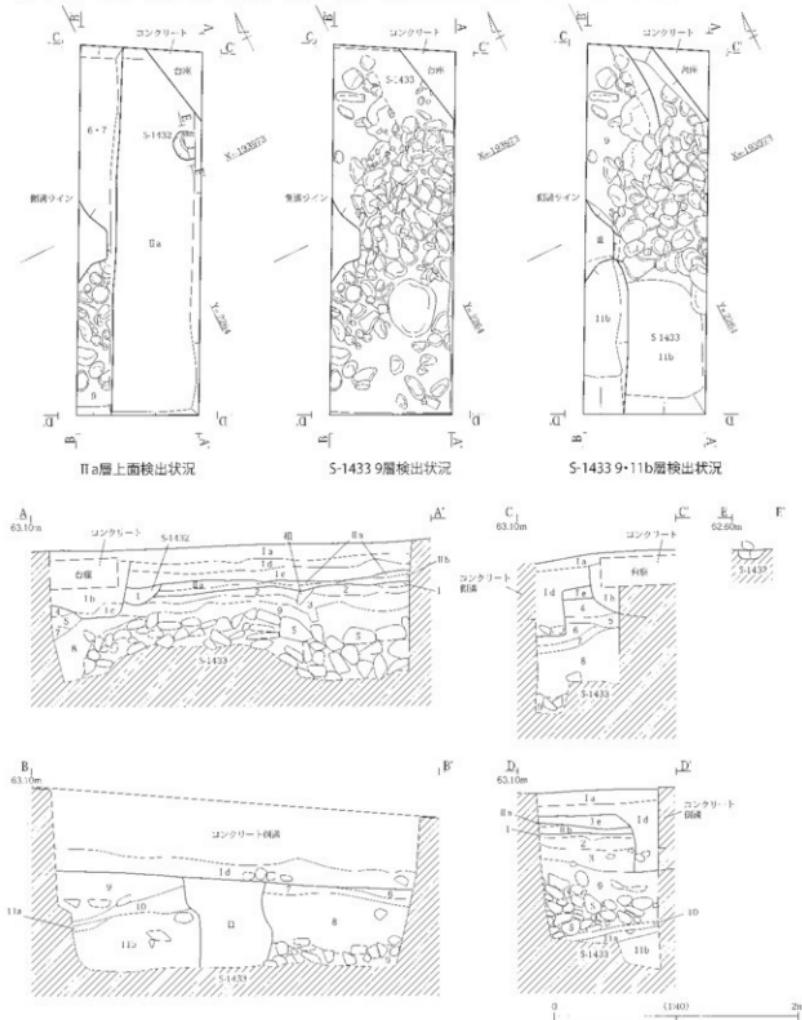
##### (2) 遺構と遺物

S-1432 (ピット) 調査区北東側、II 層上面で検出した。検出した範囲での規模は長軸 22cm、短軸 18cm、検出面からの深さは 14cm である。推定される平面形状は楕円形で断面形状は「U」字状を呈する。埋土は単層で遺物は出土しなかった。

S-1433 (溝状遺構) II 層直下、調査区全面で検出された。調査区外へ延びるため全体の規模・形状は不明であるが、

検出した範囲での規模は幅 1.3m 以上で、深さは検出面から 110cm 掘り下げたが底面を確認できなかったため不明である。平面形状は調査区西側中央部の倒溝底面で確認でき、「く」字状に屈曲する。埋土は 11 層に分層され、4 ~ 8 層は北側にのみ堆積するため別造構の埋土の可能性もあるが、明瞭な造構重複を確認できなかったので同一造構の埋土とした。遺物は瓦片、陶器片、磁器片、土師器片、大砲点火具の摩擦皆が出土している。用途・性格は規模・形状、埋土の堆積状況から満または暗渠が想定され、時期は出土遺物から近代以降に属すると考えられる。

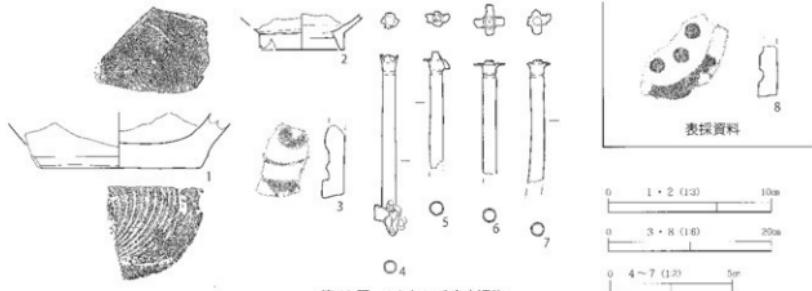
出土遺物　I 層：瓦片 9 点、磁器片 2 点、土師器 3 点、金属製品 2 点、II 層：金属製品 1 点。



第9図 4 トレンチ平・断面図

第6表 4トレンチ土層注記表

番号	層位	土色	性質	特徴	備考
Ia	10780/1	褐色	砂質シルト	なし	表1。1cm以下での浮遊物を少量含む。
Ib	10780/3	褐色	粘土質シルト	なし	1cm以下での褐色土を少量含む。
Ic	10780/6	褐色	粘土	あり	1cm以下での褐色土を少量含む。
I'd	10780/6	褐色	砂質シルト	ややあり	1cm以下での褐色土を少量含む。
I'e	10780/1	褐色	シルト	ややあり	1cm以下での褐色土を少量含む。
II'a	10780/5	褐色	砂質シルト	なし	表1。1cm以下での褐色土を少量含む。
II'b	10780/2	灰褐色	粘土質シルト	あり	表1。1cm以下での褐色土を少量含む。
II'c	10780/6	褐色	粘土	あり	表1。1cm以下での褐色土を少量含む。
S-432	1	灰褐色	粘土質シルト	あり	1cm以下での褐色土を少量含む。
5-1433	1	灰褐色	馬上質シルト	あり	表1。1cm以下での褐色土を少量含む。
2	10780/5	灰褐色	シルト	ややあり	1cm以下での褐色土を少量含む。
3	10780/4	灰褐色	砂質	なし	1cm以下での褐色土を少量含む。
4	10780/4	灰褐色	砂質シルト	なし	1cm以下での褐色土を少量含む。
5	10780/4	褐色	粘土	あり	1cm以下での褐色土を少量含む。
6	10780/2	灰褐色	細粒	なし	1cm以下での褐色土を少量含む。
7	10780/2	灰褐色	粘土質シルト	あり	1cm以下での褐色土を少量含む。
8	10780/4	褐色	粘土質シルト	あり	1cm以下での褐色土を少量含む。
9	10780/1	灰褐色	粘土	なし	1cm以下での褐色土を少量含む。
10	10780/4	灰褐色	粘土	あり	1cm以下での褐色土を少量含む。
11'a	10780/1	褐色	粘土質シルト	あり	1cm以下での褐色土を少量含む。
11'b	10780/2	灰褐色	粘土質シルト	なし	1cm以下での褐色土を少量含む。



第10図 4トレンチ出土遺物

第7表 4トレンチ出土遺物観察表

試験番号	種類	位置番号	遺物番号	種別	出土場所			法面(3m・g)	遺物名	形状	大きさ	延長	幅	厚	備考	写真範囲		
					標高	地盤名	層位											
酒10次1	陶器	1-4	56	縦溝	-	-	5-1433	9	-	(0.4)	(10.2)	(0.3)	半球	17G	直筒形高脚甌、口部斜面調節、底部斜面調節	写真17-0		
酒10次2	角鉢	1-5	85	縦溝	-	-	5-1433	11b	(7.4)	(2.0)	(1.2)	(1.2)	1.2	1.2	1.2	直筒形高脚甌	写真17-11	
陶器等の埋蔵品				埋蔵品	山手地点			法面(3m・g)			名			備考				
第10回A-1	新丸底	F-3	41	三叉支	5-1433	9	-	(0.2)	2.7	(2.0)	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	新丸底、直筒形高脚甌	写真17-10	
第10回B-1	新丸底	F-5	103	四叉支	-	-	-	(0.1)	2.2	(2.2)	(2.2)	(2.2)	(2.2)	(2.2)	(2.2)	四叉支甌、直筒形高脚甌	写真17-11	
陶器等の埋蔵品				埋蔵品	法面(3m・g)			名			備考			写真範囲				
第10回A-2	陶器	新丸底	30	縦溝	5-1433	3	(7.0)	6	2.5	(7)	(3)	-	-	-	-	-	新丸底	写真17-12
第10回B-2	陶器	新丸底	74	5-1433	7	(4.0)	6	3.5	2.0	(1.0)	-	-	-	-	-	-	新丸底	写真17-13
第10回C-6	陶器	新丸底	842	75	5-1433	8	(4.7)	6	0.5	1.2	(2.0)	-	-	-	-	-	新丸底	写真17-14
第10回D-7	陶器	新丸底	847	19	5-1433	9	(5.1)	6	0.5	(1.0)	(2.0)	-	-	-	-	-	新丸底	写真17-15

## 5.5 Aトレンチ (第3・11・12図、図版12・13・17)

大手門跡から中門跡の間、標高57.6～57.7mに位置する遊歩道に1×3mのトレンチを設定した。調査区全面で盛土層が堆積し上面で旧側溝と近・現代の柱穴を2基検出した。出土遺物が少なく、盛土層の時期は特定できなかった。下層の堆積状況を把握するため、南側の盛土層を振り下げ、地表から約60cmの地点で地山層を確認した。

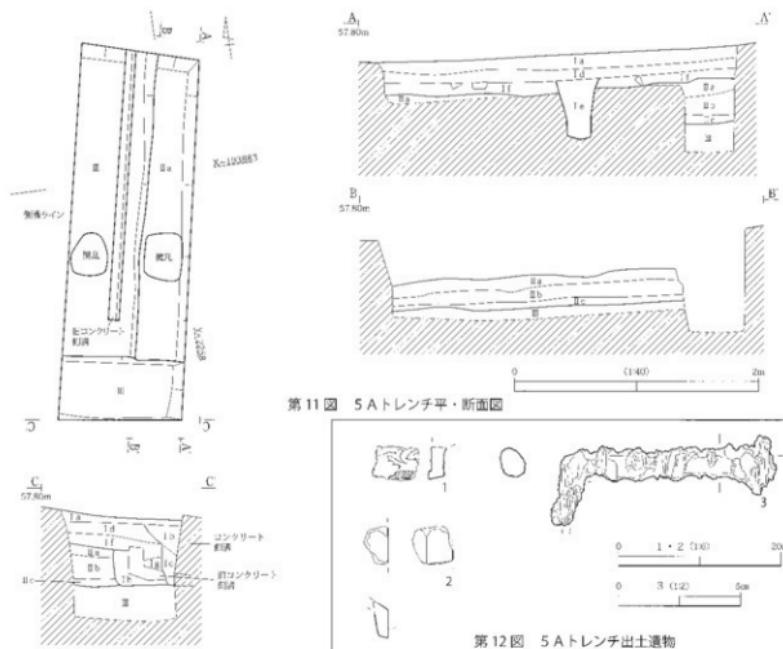
## (1) 基本層序

基本層はI層(表土)、II層(盛土層)、III層(地山層)に大別された。II層は3層に細分され、遺物は瓦片、磁器片が僅かに出土した。III層はにぶい黄褐色粘土が主体で5BトレンチのIV層に対応する。

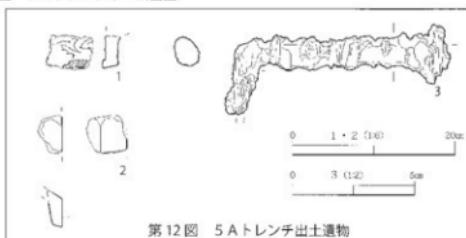
## (2) 造構と遺物

造構 植出されなかった。

出土遺物 I層：瓦片2点、陶器片1点、土師器1点、金属製品1点、II層：瓦片7点、磁器片3点。



第11図 5Aトレンチ平・断面図



第12図 5Aトレンチ出土遺物

第8表 5Aトレンチ土層注記表

遺構	位置	土色	土質	粘性	しまり	備考
	土色	土色				
I a	10VRG/1	黒褐色	砂質シルト	なし	なし	10cm以下2cm以下の黒褐色土を多量含む。
I b	10VRG/3	にぶい黄褐色	砂質シルト	あり	あり	同上層より方塊二、径20mm以上柱状土を多量、径5cm以下の円錐、尖端白色を少量含む。
I c	10VRG/1	黒褐色	砂質シルト	なし	なし	同上層より方塊二、径20mm以上柱状土を多量含む。尖端白色土を多少含む。
I d	10VRG/1	黒褐色	砂質シルト	なし	なし	同上層より方塊二、径20mm以下柱状土を少量含む。
I e	10VRG/1	黒褐色	シルト	あり	あり	近・古代の柱跡土。
I f	10VRG/2	にぶい黒褐色	砂質シルト	なし	あり	出土土石、径10cm以下の円錐を多量、径2mm以下の黒褐色土を少量含む。
I g	10VRG/3	にぶい黒褐色	砂質シルト	なし	あり	出土土石、径10cm以下の円錐を多量、径2mm以下の黒褐色土を少量含む。
I h	10VRG/2	にぶい黒褐色	砂質シルト	なし	あり	同上層より方塊二、径30mm以下柱状土を少量含む。
II a	10VRG/4	にぶい黒褐色	シルト	なし	なし	出土土石、径10cm以下の円錐を多量含む。
II b	10VRG/4	にぶい黒褐色	シルト	ややなし	なし	出土土石、径5mm以下柱状土を少量含む。
II c	10VRG/2	にぶい黒褐色	シルト	ややなし	あり	出土土石、径3cm以下円錐を多量含む。
III	10VRG/3	にぶい黒褐色	粘土	あり	あり	地山層、径5cm以下柱状土を少量含む。

第9表 5Aトレンチ出土遺物表

回復年度	種類	遺物名	遺物番号	文様	出土位置		付帯(m・g)	備考	写真版
					遺物名	層位			
第1回年度	瓦片	G-1	68	一枚建文(白墨)	-	瓦瓦	(5.5) 1.9	(52.3)	図版7-18
第2回年度	瓦	G-2	69	-	-	II (4.5) 0.30	1.6 (4.0)	瓦瓦瓦	図版7-19
第3回年度	瓦	N-14	235	-	I (0.8) 1.0	1.1	(0.5) 瓦瓦瓦	瓦瓦瓦	図版7-20

### 6. 5Bトレンチ (第3・13・14図、図版14～17)

5Aトレンチ東側に位置する遊歩道に1×4mのトレンチを設定した。調査区全面で近代の盛土層が堆積し、その下に時期不明の盛土層、地山層が堆積していた。時期不明の盛土層上面で溝跡1条、地山層上面で土坑2基、ピット1基を検出した。

#### (1) 基本層序

基本層はI層(表土)、II層(近代の盛土層)、III層(時期不明の盛土層)、IV層(地山層)に大別された。II層は6層に細分され、遺物は瓦片、磁器片などが出土した。III層は3層に細分され、遺物は瓦片が出土した。

## (2) 遺構と遺物

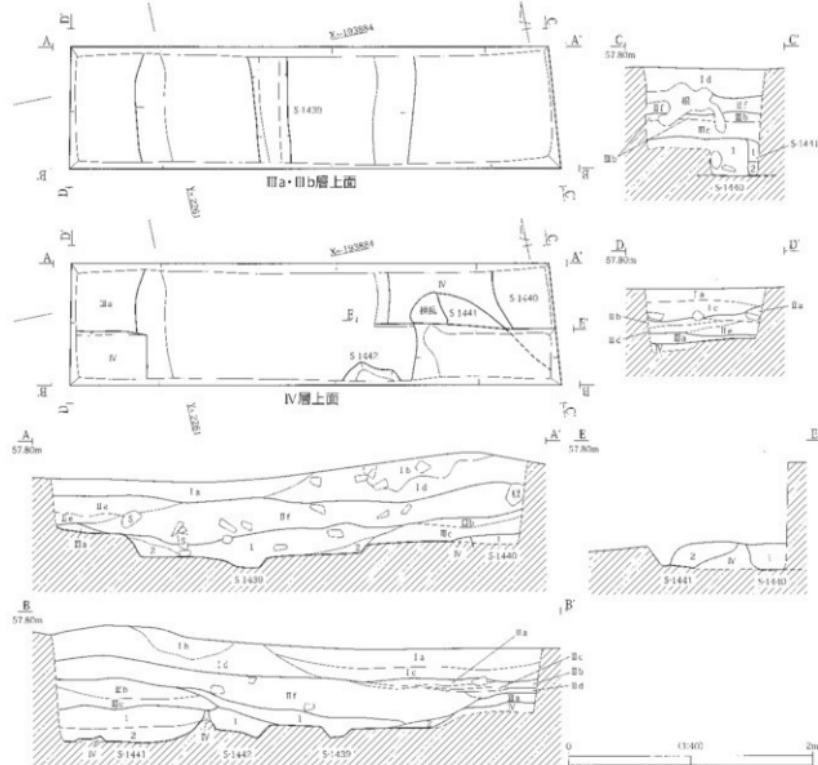
S-1439（溝跡） 調査区中央、Ⅲ層上面で検出した。S-1442を切る。調査区外へ延びるため、全体の規模・形状は不明である。主軸方位はN-11°-Eで直線状に延びる。検出した範囲での規模は幅約220cm、深さ約40cm、断面形状は逆台形を呈する。底面施設として幅12~16cm、深さ約10cmの溝を検出した。溝跡の時期は不明であるが、近代の盛土で埋められていることから当該期に廃絶されたと考えられる。

S-1440（土坑） 調査区東側、Ⅳ層上面で検出した。S-1441に切られる。検出した範囲での規模は長軸48cm、短軸44cmで検出面からの深さは23cmである。断面形状は「U」字状を呈する。埋土は単層で遺物は出土しなかった。

S-1441（土坑） 調査区東側、Ⅳ層上面で検出した。S-1440を切る。検出した範囲での規模は長軸114cm、短軸76cmで検出面からの深さは30cmである。断面形状は皿状を呈する。埋土は2層で遺物は出土しなかった。

S-1442（ピット） 調査区東側、Ⅳ層上面で検出した。S-1439に切られる。検出した範囲での規模は長軸28cm、短軸16cmで検出面からの深さは32cmである。推定される平面形状は楕円形で断面形状は逆台形を呈する。埋土は単層で遺物は出土しなかった。

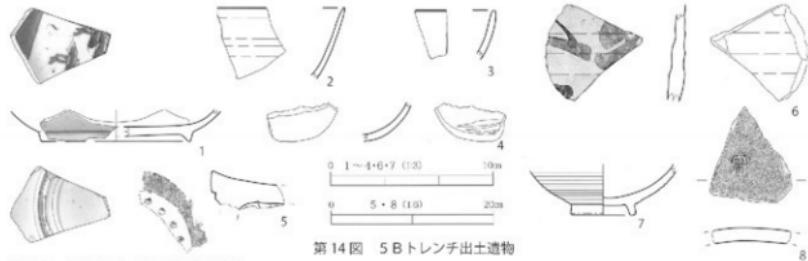
出土遺物 Ⅰ層：瓦片2点、陶器片1点、磁器片1点、金属製品1点、Ⅱ層：瓦片116点、陶器片9点、磁器片3点、土師器片5点、金属製品8点、Ⅲ層：瓦片1点。



第13図 5Bトレンチ平・断面図

第10表 5Bトレチ土層付記表

番号	層位	土 色		土質	性 質		考
		上色	下色		粒径	しまり	
1-a	10YR2/2	黒褐色	-	シルト	なし	ややあり	表土。径2mm以下の有機物を微量含む。
1-b	10YR2/2	灰褐色	-	砂質シルト	なし	なし	表土。径15mm以下の有機物を多量含む。径3mm以下の有機物を少額含む。
1-c	10YR2/1	褐色	-	砂質シルト	なし	なし	径3mm以下の有機物を少額含む。
1-d	10YR2/1	黑色	-	砂質シルト	なし	なし	表土。径2mm以下の有機物を多量含む。
1-e	10YR2/3	にじみ黒褐色	-	砂質シルト	ややなし	なし	近代の土壌。径3mm以下の有機物を多量含む。
1-f	10YR2/3	にじみ黒褐色	-	砂質シルト	なし	ややあり	古いの土壌。径2mm以下の有機物を多量含む。
1-g	10YR4/3	にじみ黒褐色	-	砂質シルト	なし	なし	古いの土壌。径1mm以下に有機物を微量含む。
1-h	10YR5/1	褐色	-	砂質シルト	あり	あり	古いの土壌。径2mm以下の有機物を微量含む。
1-i	10YR6/4	にじみ黒褐色	-	砂質シルト	なし	なし	古いの土壌。有機物を多量含む。
B1	10YR2/1	灰褐色	-	粘土	あり	あり	古いの土壌。径3mm以下の有機物を多量含む。径10cm以下の漆を少量含む。レンガ跡。
E1-a	10YR3/4	にじみ黒褐色	-	シルト	なし	ややなし	古いの土壌。径3mm以下の有機物を微量含む。
E1-b	10YR4/4	褐色	-	シルト	ややあり	なし	古いの土壌。径5mm以下の有機物、E1-c、E1-d、E1-eを多量含む。
E1-c	10YR5/4	にじみ黒褐色	-	シルト	なし	あり	古いの土壌。径5mm以下の有機物を微量含む。
E1-d	10YR7/2	にじみ黒褐色	-	粘土	あり	あり	古いの土壌。径5mm以下の有機物を微量含む。E1-eを多量含む。
S1439	1	褐色	-	粘土	あり	あり	古いの土壌。径5mm以下の有機物を微量含む。E1-fを多量含む。レンガ跡。
S1440	Z	10YR7/3	にじみ黒褐色	シルト	ややあり	なし	古いの土壌。E1-fを多量含む。
S1441	1	10YR3/4	にじみ黒褐色	粘土	あり	なし	古いの土壌。E1-fを多量含む。
S1442	2	10YR4/4	褐色	粘土	あり	なし	古いの土壌。E1-fを多量含む。
S1442	3	10YR4/4	褐色	粘土	ややあり	なし	古いの土壌。E1-fを多量含む。



第14図 5Bトレチ出土遺物

第11表 5Bトレチ出土遺物観察表

発掘番号	項目	登録番号	調査番号	測定	出土遺物		高さ	幅	厚さ	算 号	写真版
					遺物名	性状	寸法	石高	底面	寸法	
10440-1	縫隙	-	1-1	173	縫合組	-	-	0.07	0.07	0.07	16C 文化層
10440-2	縫隙	1-3	168	-	縫合	5-1439	1	-	(4.4)	-	16C 後半 布川層
10440-3	縫隙	1-4	168	-	縫合	5-1439	1	-	(3.0)	(4.1)	16C 後半 布川層
10440-4	縫隙	1-5	171	-	縫合組	5-1439	1	-	(2.4)	-	16C 後半 文化層
10440-6	縫隙	1-7	124	-	縫合	-	1	-	(5.5)	-	16C 後半 近代 道田耕原
10440-7	縫隙	1-8	127	-	縫合組	-	1	-	(3.2)	(0.6)	16C 後半 布川層 分厚 0.6cm 細縫
10440-8	縫隙	-	-	-	出土遺物	-	-	-	-	-	16C 後半 布川層
10440-9	縫隙	1-1	168	珠文=文	珠文	5-1439	1	(0.7)	(0.4)	2.3	[0446]
10440-9	縫隙	F-4	168	珠文=文	珠文	5-1439	1	(0.7)	(0.7)	1.6	[0447]
10440-9	縫隙	G-3	169	-	珠文	5-1439	1	(11.0)	(9.7)	1.6	[0448]

## IV まとめ

- 今回の調査では近世の溝状遺構1条、ピット4基、近代の溝状遺構1条、溝跡1条、ピット2基、時期不明の溝跡1条、土坑2基、ピット1基を検出したが、登城路に関連する明確な遺構は検出できなかった。
- 遺物は瓦片、磁器片、陶器片、土師器、金属製品などがコンテナ箱5箱分出土した。
- 1・2・5Aトレチでは盛上層を検出したが、遺物が出土しなかったため、時期は特定できなかった。
- 3A・3Bトレチでは近世の整地層を検出し、上面で溝状遺構1条、ピット3基を検出した。調査状況から、周辺には近世の整地層が残存し、当該期の遺構が存在する可能性が高いと考えられる。
- 4トレチでは近代以降の溝状遺構を1条検出した。近代の文献には詰ノ門付近から八木山へ道路を開通させる際に、暗渠を大深沢へ開口したという記事がある。調査区は文献記事の場所とは離れているため、直接文献に関連する遺構ではないが、周辺では近代以降に多くの土工事が行われていることが想定され、本遺構も近代以降の暗渠、溝などの可能性が考えられる。
- 5Bトレチでは溝跡1条、土坑2基、ピット1基を検出した。溝跡の時期は不明だが、近代に廃絶されたと考えられる。土坑及びピットは時期不明の盛上層から掘り込まれており、遺物が出土しなかったことから、帰属時期を特定できなかった。



図版1 1トレンチ全景（北より）



図版2 1トレンチ南壁断面（北より）



図版3 2トレンチ全景（北より）



図版4 2トレンチ南壁断面（北より）



図版5 3Aトレンチ全景（北東より）



図版6 3Aトレンチ南壁断面（北東より）



図版7 3Bトレンチ（3Aトレンチ一部含む）全景（南西より）



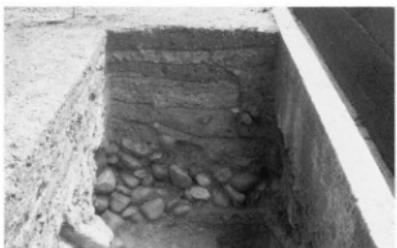
図版8 3Bトレンチ（3Aトレンチ一部含む）南壁断面（北東より）



図版9 3Bトレンチ(3Aトレンチ一部含む)S-1434断面(南西より)



図版10 4トレンチ S-1433全縦(北東より)



図版11 4トレンチ南壁断面(北東より)



図版12 5Aトレンチ企景(北より)



図版13 5Aトレンチ南壁断面(北より)



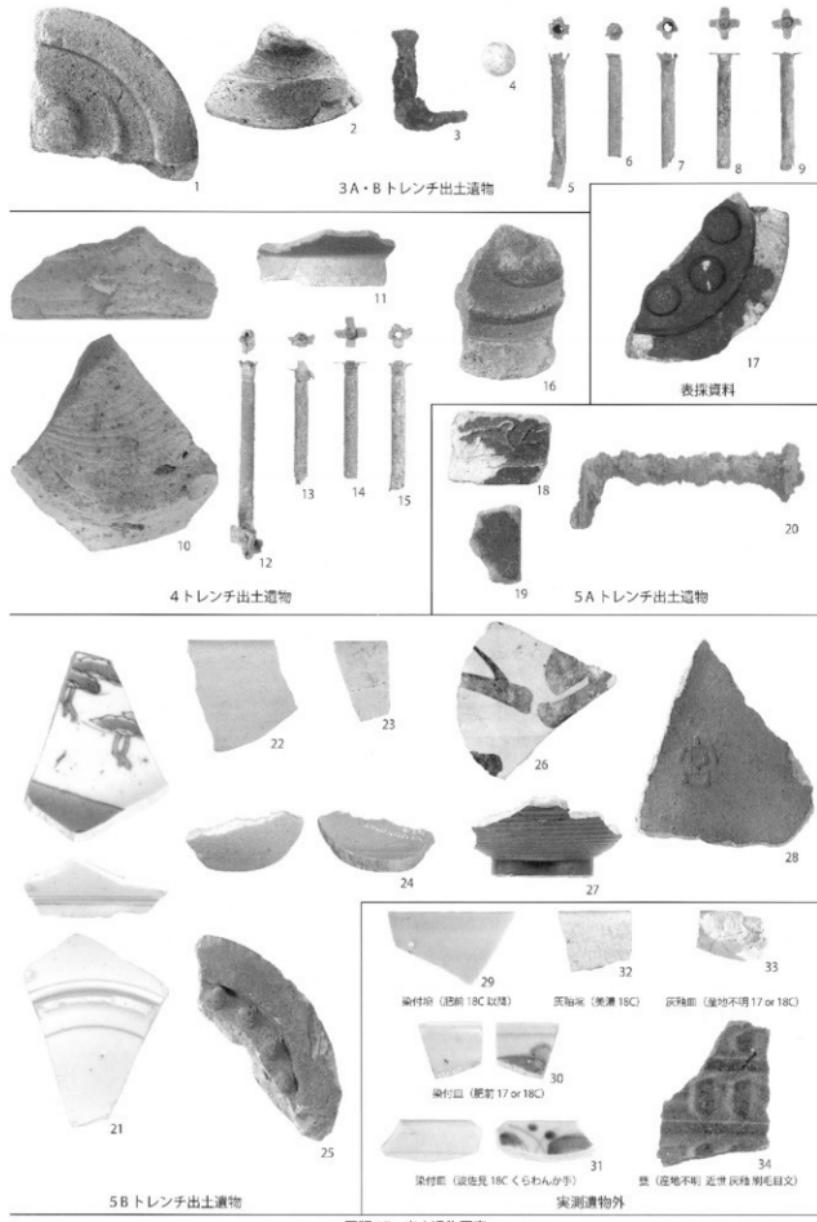
図版14 5Bトレンチ S-1439完掘(北より)



図版15 5Bトレンチ企景(西より)



図版16 5Bトレンチ南壁断面(北より)



図版 17 出土遺物写真

## 報告書抄録

ふりがな	せんだいじょうあと とじょうろ だいにじちょうさ					
書名	仙台城跡 登城路 第2次調査					
副書名	平成21年度 調査報告書					
巻次	2					
シリーズ名	仙台市文化財調査報告書					
シリーズ番号	第354集					
編著者名	佐藤洋・福井流星					
編集機関	仙台市教育委員会					
所在地	〒980-8671 仙台市青葉区岡分町3丁目7-1 TEL022-214-8544					
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	調査地点	コード			
せん だい じょうあと 仙 台 城 跡	みやぎけんせんだいし 宮城県仙台市 あおばくかわうちもない 青葉区川内地内	登城路跡	市町村 4100	遺跡番号 1033	調査期間 2009.5.18 ～ 2009.6.19	調査面積 25m <sup>2</sup>
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項	
仙台城跡	城館跡	江戸時代	溝跡 土坑 ピット	瓦 金属製品	中門跡付近で近世の整地層、溝状遺構を検出した。調査状況から周辺には近世の遺構が存在する可能性が高い。	

仙台市文化財調査報告書第354集

仙台城跡 登城路第2次調査

－平成21年度 調査報告書－

2009年9月

発行 仙台市教育委員会

〒980-8671 仙台市青葉区岡分町3丁目7-1  
TEL022-214-8544

印刷 株式会社 仙台紙工印刷

〒983-0036 仙台市宮城野区苦竹3丁目1-14  
TEL022-231-2245

